

令和5年度第2回瀬谷区地域福祉保健計画全域計画推進懇談会

令和6年3月7日(木) 14時～16時 会場:瀬谷区役所5階大会議室

令和5年度第2回瀬谷区地域福祉保健計画全域計画推進懇談会を開催しました。
今回は、「得意なことやできることを生かして地域で活躍*する人」を増やしていくためにどうしたら良いか、3グループに分かれ意見交換を行いましたので、内容の一部をご紹介します。

※ ここでいう「活躍」とは、一人ひとりの個性や存在そのものがいきいきとするような、役割や居場所があることです。(第4期瀬谷区地域福祉保健計画より)

テーマ：瀬谷区地域福祉保健計画 基本目標Ⅲ「誰もが活躍できる地域づくり」

参加者:学識経験者、地域の各団体、医療関係、学校関係、行政等(18名)



地域の多様な主体が参加・活躍している例

- ・ お祭り等に中学生が参加すると、次に友達も連れてきてくれ、興味のある子は継続して参加してくれた。防災訓練では、中学生ボランティアは大人とは違う目線で見られるので、非常に助かっている。
- ・ 自治会から、火災時の消火活動を障害者施設に手伝ってほしいと頼まれ、防災訓練を自治会と合同で実施した。施設で何かあった時には手伝ってもらえるきっかけになり、自治会とのつながりができた。
- ・ 高齢者を中心とした生活支援のグループを立ち上げ、週1回程度活動している人もいる。
- ・ 移動販売をしている従業員が、買い物客の重たい荷物を運ぶのを手伝っている。また、買い物客同士で「最近はどう？」と話しかけたり、いつも移動販売で買い物している人が出てこなかったりした際に、様子を聞く等の見守り活動にもつながっている。
- ・ 子育てサロンに参加した親が数年経って担い手になったり、新たなサークルを立ち上げたりした。支える側と支えられる側の垣根を超えた取組になった。
- ・ こどもや母親が父親(夫)を地域のイベントに連れてくることで、顔の見える関係ができると、次のイベントに参加してくれた。そうやって男性の参加が増えている。
- ・ 大きな催しをやる時に、動きの良い人に声をかけて、ボランティアとして協力してもらっている。

地域活動への参加促進に向けたご意見

- ・ 学習支援や地域のイベント等で中高大学生に来てもらっている。また、学習支援の場では子どもたち同士で教え合うことができないかと考えている。
- ・ 福祉施設で多くの外国の方が働いている。地域活動に参加してもらえるよう、町内会を中心に働きかけている。
- ・ ホームページやインスタグラム、Facebook 等を地域で立ち上げていきたいので、小中高校生に声を掛けていきたい。
- ・ 子どもの時に地域イベントに参加して「楽しかった」という思い出ができると、大人になった時に「地域で何か手伝おうかな」と、担い手になってくれるのではないかな。
- ・ 地域で、得意なこと、できること、やってほしいこと、困っていることのアンケートを取りたい。
- ・ 高齢者サロン等の参加者が増えないので、「食」をきっかけにすると参加してくれる人が増えるかもしれない。担い手側も楽しみながらやっていきたい。
- ・ 男性の参加を促すには、期待する役割を明確にお願いしたほうが良い。
- ・ 障害者個人で地域活動をするのは、地域も障害者もハードルが高いと思うので、団体や施設が率先して地域活動に参加する。
- ・ 障害のある人(子)でも、「あの人(子)は、これができる」といったことが地域で理解されれば、地域活動に参加しやすくなるので、声をかけていくことが大事。

名和田先生(学識経験者)のまとめ

- ・ コロナによる影響で活動ができなかった時期があるが、現在はその回復途上にある。瀬谷区は地域に力があるので回復してきている。
- ・ 地域活動の再活性化が進むにあたり継承の問題がある。現役世代や若い世代への取組の継承が必要であり、話し合いの場が重要である。

今後の取組について

今回の懇談会では、これまでの具体的な取組や今後の取組の可能性について意見交換をしました。基本目標Ⅲ「誰もが活躍できる地域づくり」に向け、所属団体をはじめそれぞれの役割や立場で話し合い、取組に生かしていただきますようお願いいたします。今後の懇談会で取組等を共有し、第4期計画の振り返りおよび第5期計画の策定に反映していきたいと考えています。



- ・ 瀬谷区地域福祉保健計画(暮らしやすいまちづくりの計画)
- ・ 過去の懇談会の報告書 (バックナンバー)